

カルメル 霊性センターニュース



宇治カルメル会修道院

2020年9月

367号

【教会からの巻頭の言葉】

「2020年3月27日、教皇フランシスコは世界と共に行った聖体賛美式の中で、祈るということはなんであるかを教えられました。」

『パンデミック後の選択』マイケル・ツァーニー枢機卿 序文より

祈るとは、…

- ・ 耳を開くこと。自分が生きているところで骨を折ること。風に、静寂に、闇に、雨に目を背けず立ち向かうこと。救急車のサイレンに心を騒がせること。
- ・ 自分は誰かに頼らずにはやっていけないと知ること。それゆえに、己を神にゆだねること。
- ・ 主のなされ方がわたしたち自身に浸透するように、主の体をじっと見つめること。主のなさったように、人を受け入れ、人に寄り添い、人を支えるよう、主と対話すること。
- ・ 十字架を担い、そうしてイエスと共に、多くの人の苦しみを引き受けることを、イエスから学ぶこと。
- ・ 私たちの弱さを通して救いが世にもたらされるよう、私たちの弱さを身に帯びて下さったイエスを手本とすること。
- ・ 民の救いであり、荒天の海の星である、聖母マリアを見つめること。そして、日々「はい」とこたえられるように、具体的で寛大な心づもりができるように、マリアに教えを乞うのです。

目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
通信深読お申込みのご案内	26
カルメル会の企画案内	27
東京	28
京都	30
諸所の企画案内	31
郵送お申込みのご案内	38
あとがき	39

心の泉



宇治カルメル会修道院



第三卷

第三十章 神の助けを願い、恵みが再び下ることを信じる

5 すべて神のみ手から受ける

私があなたに与えるものは、私のものである。もしそれを取り戻すとしても、あなたのものを奪ったのではない。「すべてのよい贈り物と完全な贈り物は、上から下る(ヤコブ1・17)」からである。

もし私が、あらゆる苦しみと不幸とがあなたに起こることをゆるしても、そのために憤ったり、落胆したりしてはならない。私はすぐ、あなたを起こし、すべての重荷を喜びに変える。あなたに対して、そのようにおこなう時も、私はいつも正しい。いかなる場合にも、あなたは私に感謝しなければならない。

6 キリストの愛の姿

もしあなたに理解力があり、真理にもとづいて判断するなら、不幸にあっても、みじめに気を落とすはずはない。むしろそのために喜び、神に感謝しなければならない。そればかりでなく、私があなたを^{ようしゃ}容赦せずに悲しみや苦しみを送ることを、唯一の喜びとしなければならない。「父が私を愛されたように、私はあなたたちを愛する」(ヨハネ15・9)と、私は愛する弟子たちに言った。それなのに私は、弟子たちにこの世の楽しみを与えず、むしろ大いなる戦いのなかに送った。名誉ではなく侮辱を、安楽ではなく労苦を、休息ではなく忍耐を与え、偉大な実を結ばせようとした。子よ、私のこのことばを忘れてはならない。》

第三十一章 創造主を見いだすために、一切の被造物を捨てる

1 子

《主よ、私の心にはどんな人間も、どんな被造物も入りこむ余地がないほどの高さに至るために、あなたの恵みがさらに必要なことを痛感します。私が、何かに心を占められているかぎり、自由にあなたに向かって飛び立てないのです。高く飛んで、「憩いの場所を見つけるため、私に^{めばと}牝鳩の翼を与えてくれるのは誰か？」(詩編55・7)と言ったその人は、あなたに駆け上がりたくと願っていたのでした。

澄んだ目でこの世を眺める人よりも平和な人がいるでしょうか？この世に何も望まない人よりも自由な人がいるでしょうか？だから、被造物を超越しなければならず、自分自身をまったく忘れ、心を高く保ち、万物の創造主であるあなたと被造物との間には、比較するものがないことを認めなければなりません。この世のものから完全に心を離さないなら、自由に天に駆け上がれないのです。観想生活をよく送っている人が少ないのは、この世のはかない事物から離脱する人が少ないからです。

2020-9 私は死ぬのではありません 命に入ります



暑い夏も、コロナ煩いもまだ終わりそうにありません！ ウィルス新規感染者、三密状況、日本、そして全世界各地の情報が毎日提示され、世界各地の教会活動、秘跡にあずかる機会の制限・停止などに教会は直面し、今後の見通しもはっきりしていません。今まで経験したことのないこのような状況下で自分も、家庭の者も、また職場でもそれぞれの重荷を負ったロバのようにとぼとぼ不安げに歩み続けるのでしょうか。

9月最後の日はリジューの聖テレーズの命日です。15歳で修道院に入り24歳で亡くなるまで一歩も修道院から出ることのなかったテレーズは死後、東洋への偉大な宣教者聖フランシスコ・ザビエルと肩を並べる「宣教者の保護聖人」に上げられました。「私は死ぬのではありません。命に入ります」と言い残したテレーズ、神の慈しみの愛への信頼と委託を生き、帰天 120年以上経た今日のテレーズの「愛の使命」を疑うことはできません。

毎年テレーズの命日が巡ってきます。日本語の「命日(めいにち)」…この言い慣れ、聞き慣れている言葉には、線香の香りとじめってとした墓場のイメージがつきまとっているようですが、「わたしを信じる者は死んでも生きる」とのキリストの言葉からは「命日いのちの日」の明るい希望に満ちた響きがあるように思われます。テレーズも死を前にしてははっきりと言っていました。

私は死ぬのではありません。命に入ります。

今年はコロナ禍で世界中多くの人々が直接的に間接的に「死」と直面することになりました。そしてそれはいつまで続くかわかりません。でもその道程を不安にかられて、涙して歩むのでなく、その霧に満ちた道のりで「わたしは道、真理、命である」「わたしを信じる者は死んでも生きる」と言われたキリストを信じ、キリストとの関りを日々深めていくことができますように。そして死を前にしてのテレーズの約束を思い出しましょう。

“まもなく私の使命が始まろうとしています。

私が愛したように、

人びとに神さまを愛させる使命が…”

テレーズの「命日」が多くの人々にとって「いのちの日」として祝われますように。

伊従信子(いより のぶこ)

ノートル・ダム・ド・ヴィ



創造主への賛美 (34)

くのり 彰
九里 彰

イエスが糾弾したパリサイ派の偽善、それは、簡単に言えば、「神の賛美」ではなく、「自己賛美」の誘惑から来ていると言える。人からほめられたい気持ちは、だれにでもあるが、それがすべてになってしまうところに、人が神のようになろうとする原罪の残滓を見ることができる。

前回見たように、彼らは人に見てもらおうと、施し、祈り、断食という宗教的行為をするのである。それだけ見ていけば、非の打ちどころのない模範的なユダヤ教徒である。十戒を守り、さまざまな掟を守り、生活全体を、神の賛美に向かっているかのように、きれいに整えるのである。神はすっぽりと抜け落ちているのだが、目に見えることしか見ない人間の目にはそれと気づかれることはない。本人さえも自分の偽善性に気づいていないかもしれない。しかし、それは、次のたとえにあるように、ある意味で、目が開いている人の目には明らかになっていると言うことができる。

自分は正しい人間だとうぬぼれて、他人を見下している人々に対しても、イエスは次のたとえをはなされた。二人の人が祈るために神殿に上った。一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人だった。ファリサイ派の人は立って、心の中でこのように祈った。『神様、私はほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、またこの徴税人のような者でもないことを感謝します。私は週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています』。ところが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら言った。『神様、罪人の私を憐れんでください』。言うておくが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのファリサイ派の人ではない。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる (ルカ 9・14)

このたとえから引き出されるいくつかの点を見ていきたい。第一に、「自分は正しい人間」だと思っている人は、偽善に陥っている可能性が大だということである。そう思い込むことによって、第二の特徴「うぬぼれ」や「傲慢」が生じる。そしてそこから第三の特徴である、「人を見下す」態度を取ることになるのである。

第一の点に関して言えば、自己認識の不徹底が挙げられる。自分が、徴税人ような罪人であること、父のもとから逃げ出し、自分の好き放題のことをした放蕩息子であるとの自覚がないのであれば、このたとえを理解すること自体が難しくなってくるように思われる。

(続く)

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (149)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「十字架のヨハネはシンボル？」(3)

詩人の、またキリスト者の宇宙的感性は、環境の諸要素や最も遠い銀河からも最上の言葉や詩編を引き出さねばなりません。例えば、『ユートピアのための詩』とか『新しい人の歌』*のような。そこでは二つのことが必要とされていました。すなわち、ユートピアと新しい人です。私たちが「今日、かつてないほどに、単にエコロジカルな理由からだけでなく、美的かつ霊的理由からも、汚染されていない自然空間を」必要としています。まさにそれゆえに、十字架のヨハネの人間のキリスト教的感性を、それを知っていようとしまいと、共有する人々は、このような空間を保存し、かつまた増やしていくことに取り組んでゆかなければならないでしょう。沈黙は、愛することと傾聴するための大きな空間です。

人は、今すぐに、孤独や、また星に散りばめられた静かな宇宙の夜が、あるいは星が一つもない夜が彼にとって意味するものを、経験によって知り得る権利を持っています。十字架のヨハネは、これらの夜の中で、「暗夜」や「あけぼのが始まる」夜という偉大なシンボルを直観しました。これを今、技術と光と騒音に満ちた私たちの文明の中で、生き生きとした体験として知り、かつ味わうことができるということは、決して小さな天の恵みではありません。

*二つともアントニオ・ロペス・バエサの本の題名。

どのように自然環境に対して罪を犯したり、破壊したりしてはならないかについての最終的シンボルとして、あの場面を思い出すべきでしょう。1591年の夏、7月のマドリッドの修道院のことです。跣足カルメル会の、エルメネヒルドと呼ばれた修道院は、アルカラ通りの、今日、サン・ホセ小教区があるところにあります。その当時、実際には、野原の中にもありました。十字架のヨハネは、外気を吸い、不快なことを忘れる必要があると考え、修道士たちの一人に、散歩について来るよう願いました。お伴の、イエス・マリアのホアン（アラヴァイエス）と話し続けました。ある瞬間、十分成長した草を見て、彼はこう言いました。「この草を踏まないように行きましょう。だれもが神を侮辱せずにここを通り過ぎて行きますように」。

自然を服従させること、大地を踏みつけること、その中を歩くこと、けれども、エコロジカルな均衡を破壊しないこと。自然に対して罪を犯し、無数の驚くべきものを造り出された方を侮辱することによって、ある日、大地の鍵を人間に与えたことを（神が）後悔することになるといけませんから。

(P. 九里訳)

年間 第23主日

(マタイ18：15－20)

福音の中でイエスは、神は私たちが滅びるのを望んでおられないことを語られます。今日の個所ですが、「迷い出た羊」のたとえ話、すなわち100匹の羊を持っている人の1匹の羊が迷い出たなら、残り99匹の羊を残し、その1匹を捜しに行かないだろうかと問うたとえ話後の話で、その直後には「これらの小さな者が1人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない。」との話を受けての話です。

従って、天の父の御心はどのようなものであるのか、小さな者が1人でも滅びることは天の父の御心ではない、そのためにはどのような様にすれば良いのかについて具体例を挙げて弟子たちに教え諭しているのでしょうか。

イエスは言われました。忠告をする様にと。それはその大切な兄弟が滅びない様に、兄弟が悔い改める様、生き方を正しい方向に向けることができる様、神との関係の中で正しく生きることができる様にとのことなのでしょう。

まずは2人だけのところでの忠告。もし言うことを聞き入れたら、罪を犯した兄弟が神の民の群れに戻ることになる訳ですが、そうでなければ次はもう1人か2人を連れてその兄弟に忠告。それもだめなら教会に申し出て教会が忠告。何度も何度も繰り返し、繰り返し、忠告すること、滅びない様にとということなのでしょうね。最終的に教会にも聞き従わない様ならば、ようやく神に従わない者として見做すことができるわけですが、その兄弟がその様になることを神は望んではおられないでしょうね。

道を外れてしまった兄弟が立ち返る様に、滅びてしまわない様、その天の父の御心を私たちが大切にしながら兄弟とともに歩んでゆくことができます様に。2人又は3人がわたし名によって集まる場所には、わたしもその中にいる。このイエスの言葉は今を生きる私たちにとって、大きな支えと慰めになるのでしょうか。

またどんな願い事であれ、あなたがたのうち2人が地上で心を一つにして求めるなら、天の父はかなえてくださるともイエスは言われます。私たちがともに心を一つにして、兄弟の救いのために祈ることが、人々の救いを願うことができます様に。わたしたちといつもとともにいて下さるイエスとともに、心を一つに合わせて…。

(Fr. 古川利雅)

年間 第24主日 (A)

(マタイ18 : 21 - 35)

本日の福音のテーマは、「人を赦すこと」です。赦しとは、キリスト教において最も大切な徳の1つです。私たちは、十字架上から真に赦す方法を示してくださった救い主キリストから赦しについて学びます。

「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。7回までですか」とペトロは主に直接問いかけますが、この質問の背景には、律法上、過ちは3回まで赦されるが4回目以降は罰せられるべしという当時の考え方がありました。ペトロは、赦す回数を3回から7回へと増やし、寛大で慈悲深い姿勢を見せたのです。そして自分の赦す姿勢をイエスがほめてくれるに違いない、とペトロは確信していたことでしょう。しかし驚いたことに、イエスは7回では満足せず、7の70倍、すなわち無限に赦せ、と教えられました。

今回のたとえ話に登場する王様は神です。私たちは一人残らず、自力では決して返済できないほどの多額の借金を赦していただいています。借金とは、私たちの罪、悪行、誘惑、そしてその結果である神との敵対関係を指します。イエスは、十字架刑を受けることで私たちの借金を返済し、「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」と十字架の上で言葉を発したのです。イエスは、ご自分の無条件の愛と赦しにならって、私たちも人の罪や間違いを赦すことを求めています。

神が私たちを赦してくださったように私たちも人を赦すこと。これこそ、たとえ話を通してイエスの伝えたかったメッセージです。ただ、人間的な視点から罪を見ると、過ちを犯した人は、自分の非を認めて痛悔し、相手に謝罪し、与えた被害を修復した後にはじめて赦されるものだと考えます。一方、キリスト者的な視点で見ると、神がいかに惜しみなく私たちを赦し、赦しの恵みを与えられたかに気づかされます。この神の赦しに触れて突き動かされた私たちは、痛悔するとともに人をも赦すことができるのです。神は、人を赦す者を赦されます。人を心から赦すことをいつも学んでいきましょう。

(Sr. Paulina)

年間 第25主日

(マタイ20：1－16)

「そこで、五時ごろ雇われた人たちが来て、一デナリオンずつ受け取った。最初に雇われた人たちが来て、もっと多くもらえるだろうと思っていた。しかし、彼らも一デナリオンずつであった」。

一見、不公平に思えるこのたとえ話ですが、イエスの意図は神のいつくしみを示そうとするところにあります。この世の職場の話をしよとうとしているではありません。神様はどんな人にも惜しみなく恵みを与えたいのであり、天の国とはその神様の恵みの世界なのです。

ぶどう園は、単なる労働の場所ではなく、神様の愛の楽園の象徴だと言えるでしょう。イスラエルは聖書の中でたびたびぶどうの木にたとえられています。イエスもご自分をぶどうの木、私たちをその枝にたとえています。ぶどう園は、イエス様につながり、神様に手入れしてもらい、皆がその実りを分かち合う神の国の象徴なのです。

一デナリオンは、一日のための十分な生活費です。神様は、明日も、明後日も、それを皆に与えるつもりです。一デナリオンもらえれば、それで十分なはずです。

ところが、最初に雇われた人たちが不平を言い、「最後に来たこの連中は」と罵っています。この人たちは、お金のことしか考えていません。主人がどんな方であるかを見ていないのです。また、ぶどう園がどんなに素晴らしい恵みの場所かを見ていません。素晴らしい方に招かれ、素晴らしい場所で働かせてもらっていることを味わっていません。

招いてくださった方、そして、ぶどう園の素晴らしさ、また、一デナリオンの恵みの重さを知り、味わうことをせず、お金という現実的なことばかりに目を向けていると、人はお互いにギスギスしたり、傷つけあったりするのではないのでしょうか。奥村神父様が、「現代思想の危機は、計算思考の反乱と瞑想思考の喪失である」と書いています（奥村一郎『祈りの心』海竜社）。温かい心を生きるために、人は瞑想思考を取り戻し、神の愛を味わう必要があるのです。

私たちも、このたとえに出でてくる主人の姿を黙想し、神がどんなに憐れみ深い方であり、その神から招かれている喜びを深めることで、人を裁いたりする狭い心から解放されたいものです。

主人は何度も何度も広場にやってきます。夜明けごろ、九時ごろ、十二時ごろ、三時ごろ、そして五時ごろ。「あなたたちもぶどう園に行きなさい」。「なぜそんなところにいるのか」と。五時ごろにまでやってくるということは、それは働き手が必要だからという理由ではないことがわかります。ぶどう園は働くための場所と言うよりは、みんなを一つに集めようとする神の国の象徴なのです。

イエス様という方は、そのようにして、ぶどう園から出てきた方です。私たち一人ひとりを招くために、「あなたたちもぶどう園に行きなさい」と恵みの世界に招くために、探しに来られた方なのです。

私たちは、神様から無限の憐れみを受け、探し求められて、教会に入れていただきました。神の愛を心に深く沁みとおらせ、私たちも憐れみ深くなっていくことができますように。この主人の姿を心に刻み祈りましょう。

(今泉健 神父)

年間 第26主日 (A)

(マタイ 21 : 28 - 32)

マタイ福音書のこの二人の息子の譬え話は初代教会の状況を示す独特な譬え話で、イエスの時代の宗教界の人たちの事情を示しています。この譬え話は何が正しいか、何かをすと言って実際は行わないのと、しないと言った後で考え直して行うのと、どちらがよいかを知らせています。実際には、お父さんへの応えとしては二人とも良い息子ではないでしょう。二人とも完全ではありません。しかし、よくない方に留まったままでいるよりは、心を入れ変えて善を行うほうがずっとよいのです。私たちの神との関係では、行動のほうが言葉より大切です。お父さんが要求したことを実際に行った息子のほうが、父の望みを成し遂げたことがわかります。

今日の福音の譬え話は、イエスの時代の宗教界の人たちや民間市民の指導者たちに向けられています。この人たちは、神についてたくさんのお話を語っています、特に律法を厳密に遵守することによって神にどのように仕えるかについてたくさんのお話を語りました。しかし、彼らはイエス様がお自分の生活と教えを通して伝えている精神、とりわけ弱く貧しい人々への愛や、憐れみ、思いやり、寛大な心を持っていませんでした。イエスの教えを聞いたとしても、それを実行しようとはしませんでした。イエスは、徴税人や売春婦たちのほうが先に神の王国に入ると語っています。これらの人たちは実際には神の掟を守っていたわけではありません。しかし、この人たちはイエス様に出会うと自分の生活の中に大きな変化を体験しました。イエス様のお話を聞いて、自分たちの言葉や行動を通して応えました。この人たちは、お父さんに初めは「ノー」と答えたのに後で思いなおして実行した本日の譬え話の「息子」のようです。

私たちの愛する父である神は、全ての人を呼んでいます。その招きはパーソナルで、オープンです。誰も従うように強要されることはありません。神の呼びかけを聞くのは、パーソナルで自由な決心です。イエスはまた、言葉が神への全人的な応えを表しているのではないことに気づかせます。要求されているのは、全人的なものからなる統合的な応えです。自分の考え、言葉、行動全てからなり、心からの真の応えを意味しています。

(Sr. Paulina)

いのちの言葉 9月

与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。
押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに量りをよくして、
ふところに入れてもらえる。 (ルカ6・38)

「イエスは山から下りて、平らな所にお立ちになった。大勢の弟子たちとおびたしい民衆が、ユダヤ全土とエルサレム、また、ティルスやシドン地方から、イエスの教えを聞くために来ていた」¹。イエスの山上での説教の冒頭、福音史家ルカは、その時の情景をこのように描いています。山上の説教を通して、イエスは、神のみ国に入るための条件、さらに、御父がご自分の子どもたちにされた約束について明かされます。

そこに集う異なる民族や文化を持つ群衆を前に、イエスは、ためらうことなく自由に語りかけられます。彼の言葉は、愛である神の似姿として造られたすべての人が、「ひとり人間」として自己実現されるための普遍的なメッセージです。

与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに量りをよくして、ふところに入れてもらえる。

イエスは、福音がもつ革新的な新しさを示されます。ご自分の子ども一人ひとりを「溢れる愛」で愛される御父のこと、でもそれだけではありません。子ども達が、兄弟に対して心を広げいっそう寛大になれるよう力を下さるのも御父です。「持っているものを与えなさい」と言うイエスの強い要求がそこに感じられます。物質的な富もそうですが、相手を受け入れ、憐み、許し、そして何よりも神に倣って寛大に与えなさいというイエスの強いメッセージがそこにあります。

「溢れるほどにふところに入れてもらえる」というイエスの言葉には、私たちに対する無限の神の愛の大きさ、そして、その約束は必ずや実現されるという確信があります。この確信があるなら、私たちは、損得勘定からくる不安からも、また、たとえ相手から何の見返りもなかったとしても、そう落胆することはないでしょう。

今月のみ言葉について、キアラ・ルービックはこう語っています。「誰かから贈り物を貰った時、自分も何かお返ししたいと思ったことはありま

せんか？もしそうなら、愛である神様にとってはなおさらのことでしょう。神様は、そのみ名によって私たちが兄弟に対して行ったことに対して常に豊かに報いてくださる方ですから。でも、そうなさるのは、決して私たちが富ませるためではありません。私たちが富を持っていればいるほど、神のみ摂理の管理人として、それらを他の人々に分配することができるからです。神様が、私たちに与えて下さるのはそのためです。もちろん、イエスは、私たちが第一に受ける報いは天にあるとお考えですが、とはいえ、この地上で起こることは、すでにその前触れであり保証となるものだと思います」²と。

与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに量りをよくして、ふところに入れてもらえる。

スペインのヘススの体験です。「妻と私はビジネスコンサルタント会社を経営しています。ある時、「共有の経済」³のことを知り当社でも、従業員、小売り店、同業者、顧客との関係を見直すことにしました。正当な賃金の支払いにはじまり、取引先との長期契約のために相手の提案を重視したり、同業者との合併事業では社の技能（ノウハウ）を損得なしに提供したり、顧客には誠意をもって助言するよう心掛けるようにしました。2008年、リーマンショックで世界中が金融危機に陥ったとき、これまでに築かれた信頼関係によって倒産をまぬがれました。

その後、“さあ、立って歩こう”というある民間団体を通じて、コートジボワール共和国在住のスペイン人教師に出会いました。彼は集落の生活環境改善の一環として、妊婦のための産院を建てようとして計画していました。私たちは彼のプロジェクトを検討し必要な資金を提供しましたが、最初彼は信じる事が出来ませんでした。それで私たちは、会社の利益を分配したいと説明しました。イスラム教とキリスト教信者によって建てられた産院は、「友愛」と命名され今や、両者の共存の場となっています。ちなみにここ数年来、当社の利益も以前の10倍になりました。

レティツィア・マグリ

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

1 ルカ福音書 6、17-18 参照

2 キアラ・ルービック、いのちの言葉 1978年6月

3 <https://www.edc-online.org>

私たち人類にとって未曾有の出来事、百年の出来事、といわれる新型コロナウイルスの蔓延は、相変わらず止むことなく 相変わらず未知の姿をもって、世界中を脅かし混乱と恐怖に陥れています。 ウイルスの正体は少しずつ解明されているらしいのですが、今は誰も一人一人が自分の分をもって、自分のできる感染予防に力尽くさなければならぬようです。

太平洋戦争以来の苦難といわれます。 私もそう思います。

戦争の時私は小学校に入るか入らないかの子どもであり、新型コロナウイルスの現在は八十路余りの老人です。 このことには身勝手な思いをあえて言ってもいいのなら、ああよかったという思いがあるのです。 戦争の時、家族を離れて祖父母のもとに縁故疎開をしていた時のこと、空襲警報なのでしょうか眠っているところをいきなり起こされて、寝ぼけのまま手を引かれたり抱かれたりして、どこやらを歩いたり走ったり、おしっこしたいと訴えても、どこやら皆目わからない暗闇でさあここでしなさいと言われてたり、真っ暗な中を通り抜け、着いた先は庭に掘られた防空壕の中と気づいて、寝ぼけのまま呆然としてしまうというような時に、ああ大人はすごい何でもできるのだと感嘆し、私はできないああ子どもでよかったと思ったことを鮮明に覚えているのです。 ふり返れば幼い自分の心細さ、寂しさ、怯えなどを切なく思いやるのですが。 そして今、コロナ禍の八十路越えの老人は、とりあえずは何らかの社会的機構の責任を担うこともなく、身に及ぶ重症化の危険は受け入れるも、ステイホーム自粛の日々はむしろ順当なこととして無理なく成り立ちます。 そして私はステイホームが好きです。 ああよかったとは、あの時のあの子どもも、今現在のこの老人も、詰まる所誰かの保護のもと誰かのお世話で禍を逃れている身なのだと、そういうことであるのでしょうか。(忝いです)

ステイホーム 自粛の日日もずいぶんと長くなり、「つがいの巣ごもり」はこの身にすっかりなじんできました。 巣の中には卵もなく雛もいません。 訪れて来る如何なる仲間もいません。 巣は一つのつがいだけの密やかな営みだけであり、時間も空間も全てが良くも悪くも息詰まるほどに濃密であり、そこにあるあらゆるものは、きっと客観性などは届き得ないほどの主観の息づかいのみであるのです。 老老介護の困難はそれなりに大きくあります。 おそらくは双方ともに初体験であるのですが、大声で怒鳴り合ったり、腹立ちまぎれに家出をしたり(30分くらい)、これまでは当たり前だったコミュニケーションがもはや絶対に不可能だという事実を、日々深まる老いの中に知り受け入れ、新しい関りを一瞬ごとに探りゆく困難に、或る時は

「ヨブ記」をお友達にしたくなったり、そうでない或る時は「雅歌」を深々と味わいなおし、「黙示録」を想ったりと、心の内は大騒動の連続ではありません。

遠藤周作の謂いによれば「人生」も「生活」もということになりますが、その両方を、共にがっぷりと組み合い交じり合い溶け合い、そうやって60年もの結婚の歳月を生きてきて、最後のここは如何と問われているのだという思いもあり、それはまた日日明けるごとに必ずここに届けられる未知の贈り物を、全身全霊で確かめることであると思えています。

ホームステイ自粛の日は、外に出ない人に会わないということで、全てにゆとりのない老老介護生活であるのにもかかわらず、またそこはかたない危機感はいつも抱きながらではありながら、ゆっくりと内に深く落ち着く時間、また恣意にする時間は不思議と豊かであると感じます。

テレビを見る、本に耽る、ノオトに記す、電話する、窓外の樹木に心を向ける、蝉の声鳥の声を聴く、何の意識もなくただただぼんやりする。

コロナを報じるワイドショーの追っかけをし、藤井棋聖の報道に見入り、山川宗玄師の禅の話にこころを潜め、500頁越えの若松英輔著「霧の彼方 須賀敦子」に文字通り没頭耽けまくり乗じて須賀敦子の本を数冊再読し、新聞の連載小説にあらうことか新型コロナウイルスが登場して物語に見事に組み込まれたことに驚嘆感動し（作者中村文則自身驚いたと云う）、今期芥川賞の作家は孫より若いことに感慨を覚えつつ頁を繰り……

夜更けとなり、静まった家の中と自分の内とに浸り耳を澄まして、詩篇130と天使祝詞を唱え今日の日を感謝する時、まさしく私の終課ですが、毎日のざわざわして、しかしいつもどこか哀しく寂しいあれこれのすべては、祈りと共に大いなる働きの中へと集約されていくのを感じて安心します。夜の闇は果てがないゆえに安らがだけれど、なぜか必ず明けを感じさせて不思議です。

キリスト者でもないのにいつも神父のような物言いをする親友は、今、うつ症状でひどく苦しんでいるのですが、終末の話をした後いつも言うのです。

「大丈夫だよ 最後はあなたが悲しむことのない方角だよ」

私の主よ 私の神よ —— 来てください 来てください

(上野毛教会信徒)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2020年7月21日

「愛の生ける炎」 CITEsで国際会議



『愛の生ける炎』、この十字架の聖ヨハネの最も良く知られた著作名は、スペインのアビラにある「聖テレジア・十字架の聖ヨハネ神秘神学大学 (CITEs)」が毎年開催する、国際学会の今年の主題です。今年4回目のこの学会は、2020年8月31日と9月6日に予定通り行われます。CITEsの主催者によると、例年のように参加希望者は直接会場に来るか、またはオンラインでの参加も可能です。

CITEsの共同体では、この学会開催のために衛生局から要請されるコロナ感染防止対策に即して、会場でのスペースを取るために、懸命の努力がなされました。従って、この夏の他の活動と同様にこの学会はCITEsで厳密な安全衛生対策のもとで開催されます。

CITEsのフランシスコ・ザビエル サンチョ神父によると、学会には十字架の聖ヨハネの体験と教義の深さと広さが理解できるよう、聖人の霊魂の働きの中心部の深淵にまで至る助け手となる世界的に著名な専門家たちが、講師として招かれるとのことです。

この学会は、私たちが十字架の聖ヨハネにより近づき、聖人の芸術的文学的創作とその教義に触れ、著作の読解と解釈、そして諸宗教間対話や学際的対話に新たな領域を見出すものとなることでしょう。

この学会や他の活動に関する詳しい情報は、<https://www.mistica.es/> をご覧ください。

(訳：小宮山延子)

糸巻き棒からペンへ(56)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

彼ら（パストラナの男子跣足カルメル会士たち）は、厳しい断食と身体的苦行を行なうことを申し出、同じことをするよう修道女たちに挑戦してきたのです。『霊的挑戦』の中で聖女は、「そのチラシを見た時、そんなに勇敢で勇ましい男性と同じ試合の場に入っていく力は私たちには到底ないと思われました」。

聖女は、まず皮肉で始め、彼らに洞穴を出て、世界と接触して生きるように勧めています。敵対的な環境の中で信仰に忠実にとどまることは、人間やさまざまな問題との接触から逃げだすことより、ずっと難しいと。最後に、彼らの苦行への熱意を、イエスやマリアに観想のまなざしを向けつつ、謙遜、忍耐、離脱、従順、愛などの諸徳を実践する方向へ変えるよう提案しています。これらの諸徳こそ、聖女や修道女たちが、試合において差し出すことができるわざでした。その提案は、ある者たちを感激させましたが、他の者たちからは無視され、軽蔑されました。

祈りの実践

奉獻生活者にとっては自然なことですが、一日は、諸秘跡の挙行や神を賛美する聖務日祷などによって特徴づけられています。修道院では非常に貧しい生活をしていたにもかかわらず、テレジアは、教会の装飾のためには必要なものを購入することを望みました。たとえば、花や香や典礼祭具や信心用のご像などです。また式の挙行は、大いに節度をもってでしたが、威厳をもって行われることを望みました。彼女が望まなかったことは、修道女たちが、難しい歌の練習でたくさんの時間を失うことや、式の挙行がコンサート、あるいは暇な人々のための娯楽と変わることでした。それゆえ、多音階のものより、単音階の歌や単純なメロディーを好みました。しばしば友だちの司祭たちに、何らかの詩編や聖務の読書課の文書の意味を共同体に説明してくれるように頼みました。聖女は毎日聖体を拝領しました。これは、当時において本当に例外的なことでしたが、他の修道女たちもそうすることを、少なくとも頻繁に拝領することを望みました。(続く)



(P. 九里訳)



2020年 夏号 No.377

《現代に生きる祈りの伝統》**
 祈りの生活 ラファエル塩谷

信仰生活(再)入門(10) 聖書に学ぶ祈りの道(2)
 一詩編：嘆きと信頼の詩 片山はるひ

道の霊性(2)一道の重さと軽さ 田畑邦治

キリストに伴われて季節を巡る(10) 伊従信子

病者の塗油の秘跡 ポール・フェルナンデス

カルメル会の会則に見る
 アシェーシスと修道生活(10) 九里 彰

霊的研究会講義録(8)一聖書・祈り・愛について
 奥村一郎

2020年 特集号

「すべてのいのちを守るため」
 ーフランシスコ教皇のメッセージー

神の愛といのちの福音を次世代に 松田浩一
 教皇フランシスコの説く「平和への道」 九里 彰
 司牧者のかがみ 教皇フランシスコ 今泉 健
 教皇フランシスコならではの視点と光 大瀬高司
 ー寄留者の尊厳

ご案内 1冊 520円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
 各カルメル会黙想の家 他ににてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、700円【520円 (+送料 180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬+特集号 計 3,500円)を
 下記へお振込み下さい

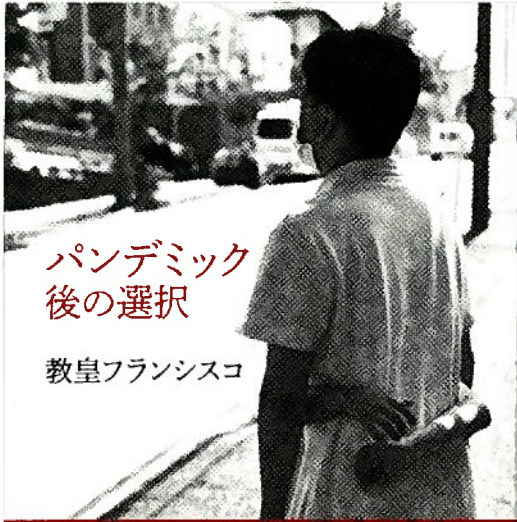
郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

書籍案内



パンデミック 後の選択

教皇フランシスコ

無関心のグローバリゼーションは、わたしたちをその歩みにおいて危険にさらし挑発し続けます。どうかわたしたちが、正義と愛と連帯という必須の抗体を見いだせますように。

COVID-19 という人類の危機から生まれうる、貧しい人、弱い立場にある人を中心にした、新しい世界を築くための手掛かり。

カトリック中央協議会

『パンデミック後の選択』

著者：教皇フランシスコ

判型：四六・並製

ページ数：80 ページ

価格：本体 500 円（税込 550 円）

ISBN：978-4-87750-224-9

出版社：カトリック中央協議会

バチカン出版局より刊行された Life After the Pandemic の邦訳。パンデミックに言及する 8 つの文書を収録。高い感染リスクにさらされながらも他者に献身する人々や、収入が絶たれたり、在宅要請を守るのが難しかったりする弱い立場の人々に心を寄せつつ、困難な試練を新しい選択への好機に変えるよう励ます。単にパンデミック以前を取り戻すのではなく、連帯を示し、もっとも傷つきやすい人を中心にした社会を構築すべきとの呼びかけ。

目次・内容

- 序（マイケル・ツァーニー枢機卿, SJ）
- なぜ怖がるのか（特別な祈りの式におけるウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年3月27日、サンピエトロ大聖堂前にて）
- コロナ後への備えの重要性（ロベルト・アンドレス・ガラルド氏あて書簡、2020年3月28日付）
- 新たな炎のように（2020年復活祭ウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年4月12日、サンピエトロ大聖堂にて）
- 目立たぬ兵士たち（草の根市民運動あて書簡、2020年4月12日付）
- 再起計画（雑誌 Vida Nueva（新しい生）への書き下ろし、2020年4月17日）
- エゴイズム——より悪質なウイルス（復活節第二主日（神のいつくしみの主日）説教抜粋、2020年4月19日、サントスピリト・イン・サッシア教会にて）
- ストリートペーパー関係者へ（2020年4月21日付書簡）
- 地球規模の問題を乗り越える（第50回アースデイについての一般謁見講話抜粋、2020年4月22日）
- 付録（マリアへの祈り一、二）
- あとがき

新書紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための
待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジア・ヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禪
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

2020年のご案内

年間テーマ 手をとりあい、白ら歩み出す



大瀬高司 師

好評の2019年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会
——山本信次郎研究ノートより
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

その他の新連載

- アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
- 知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
- かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
- 聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から
杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
- 新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
- いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために
吉川まみ（環境学者）

継続連載

- 典札暦と季節の味わい（応用編）
柳谷晃子（食文化研究所主宰）



月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp/>

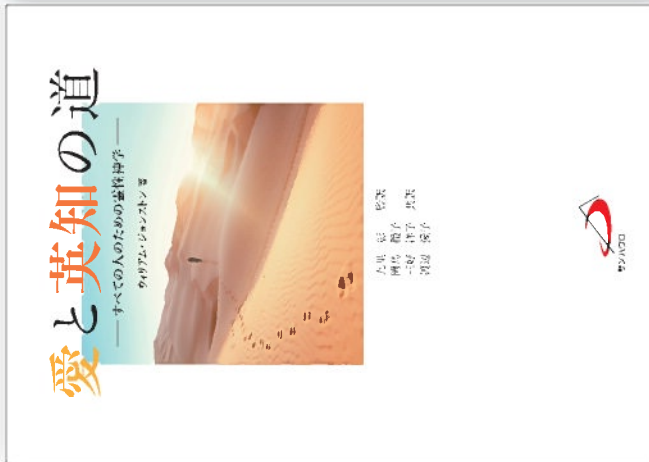
愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳

岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じる。また、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

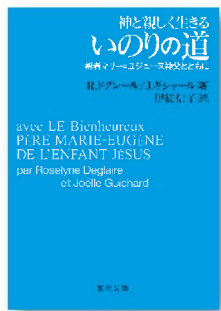
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



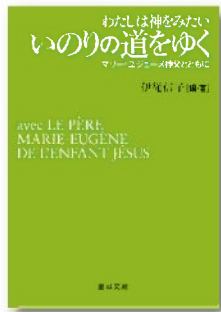
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

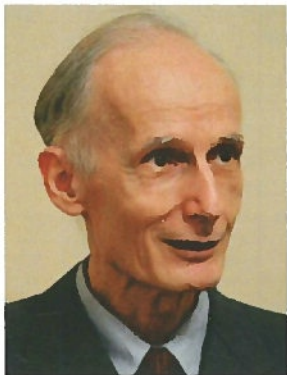
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】

12月24日(木)～25日(金) 朝食《講話なし、夕食なし》

聖書深読黙想会 (土曜日18時～日曜日16時) カルメル会士

10月31日(土)～11月1日(日)

2021年 2月27日(土)～28日(日)

一日黙想会：(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士

《 カルメル会聖人に学ぶ黙想会 》

9月16日(水) 10月21日(水)

11月18日(水) 12月16日(水)

2021年 1月20日(水) 2月17日(水) 3月17日(水)

一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時)

10月24日(土)～25日(日) 今泉健神父

2021年

1月23日(土)～24日(日) 今泉健神父

3月13日(土)～14日(日) 今泉健神父

奉献生活者のための黙想会 (初日17時～最終日朝食) カルメル会士

12月27日(日)～1月 5日(火)

青年黙想会(男女) 35歳位まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士

2021年 3月26日(金)～28日(日)

召命黙想会（男女）40歳まで（初日16時～最終日16時） カルメル会士

11月 6日(金)～ 8日(日)

特別黙想会（初日20時～最終日16時）Sr. 伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）

11月13日(金)～15日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ： <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内

2020年4月～8月頃まで黙想の家の改修工事を行う予定でしたが、コロナ禍の為、未だに工事が始まっておりません。今年冬頃の黙想会の再開を目指しておりますが、現在の所、未定となっております。また今後、予定や進捗状況について決まり次第、お知らせ致します。

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。担当が不在の場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。

記載には注意を期しておりますが、

詳細は各問い合わせにご照会下さい。

よろしくお願い致します。

真命山 2020年 — 祈りの集いのご案内

「祈り」

最高の神秘体験として御聖体の秘跡を戴いてキリストと出会う

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

- 1月 9日 「キリストに結ばれる」：入信の秘跡の完成
2月13日 「キリストに生かされて生きる」：永遠のいのちの糧をいただく
3月12日 「キリストとともに死ぬ」：ほふられた小羊の生け贄に倣う
4月 9日 「過越の神秘の体験」：復活されたキリストと出会う
5月14日 「聖霊に生かされて歩む」：聖霊降臨の恵みの中で生きる
6月11日 「キリストの現存の神秘」：「みことば」は私たちの間に宿られる
7月 9日 「一致のしるし、愛のきずな」御聖体から生まれる教会
* * *
- 9月10日 「御聖体によるいろいろな奇跡」：ご聖体に対する信心の歴史
10月 8日 「キリストの現存」：信仰のしるしである御聖櫃の美術
11月12日 「死に勝たれた救い主の勝利」：終末論の宴
12月10日 「私たちの間に生まれるキリスト」：御ことばは「肉」となられた



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

前晚17:00まで可

www.shinmeizan.com

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
仙台・福島 フォローアップ	9/19(土)9:00- 20(日)16:00 ※サダナ I を終え ている方。	Fr マル コ・アント ニオ Fr 植栗	ラ・サール会 仙台修道院 (仙台市宮城野区) ※前泊・継続宿泊・ 通いも可能です。	菅野(すがの) 由美子 TEL 090-1737-6651 peche901@yahoo.co.jp
仙台・福島 サダナ I	9/21(月)9:00- 22(日)16:00	同上	同上	同上
B	9/27(日) 9:30-17:00	Fr 植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※ TEL 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana12378@yahoo. co.jp
フォローアップ	10/4(日) 9:30-17:00	Fr 植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
リピーターの 会@浜松	10/15(日)17:30- 18(月)14:00	Fr 植栗	浜松三ヶ日研修セン ター(浜松市北区)	同上
入門 B	10/25(日) 9:30-17:00	Fr 植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
サダナ II	10/30(金) 17:30 11/3(火)16:00	Fr 植栗	汚れなきマリア修道 会・町田黙想の家 (町田市本町田)	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

- ◆サダナ I : サダナ I において、呼吸や身体感覚を鋭敏に感じることで心の静まりを入り口として、深みに進みます。
- ◆サダナ II : サダナ I の土台を生かしながら、さらに奥へ、高みへと向かいます。
- ◆入門 A.B.C : 本来は、宿泊して営む「サダナ I」の内容を分割して体験していただくプログラムです。
- ◆フォローアップ…サダナ I を終えた方。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14：00～16：00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

年内中止のお知らせ

岐部ホールより感染防止対策の規定が出されました。

それによれば、最大20名までの利用であればOKということです。

この「念祷の集い」は、不特定多数の方が20名以上集まるため、

年内の開催は難しいということになりました。

なお、来年1月からは予約制で行ないたいと思います。

この予約受付に関しては、追ってお知らせいたします。

*問い合わせ先：042—473—6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院 (2020年)

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel : 077-579-7580
Fax : 077-579-3804
E-メール : karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13分

◎ 黙 想

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 5月10日(日)～ 5月18日(月)
- ② 8月14日(金)～ 8月22日(土)
- ③ 10月 4日(日)～ 10月12日(月)
- ④ 12月27日(日)～2021年1月4日(月)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2月 7日(金)～ 2月9日(日)
- ② 2月28日(金)～ 3月1日(日)
- ③ 3月27日(金)～ 3月29日(日)
- ④ 6月12日(金)～ 6月14日(日)
- ⑤ 7月17日(金)～ 7月19日(日)
- ⑥ 9月18日(金)～ 9月20日(日)
- ⑦ 11月13日(金)～11月15日(日)

C. 講話 黙想（奉獻生活者のため）

6月22日（月）夕食 ～ 6月30日（火）昼食
九里 彰 師（カルメル会）

- ◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 靈的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 氏名(カガカ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

8日間の黙想は 先着順 11名、週末3日間の黙想は先着2名 です。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。

D. 独身女子青年の集い

7月25日（土）～ 26日（日）

9月12日（土）～13日（日）

11月7日（土）～ 8日（日）

申込み：唐崎修道院 Sr. 桂川美代（Tel. 077-579-2884）

- E. その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。

（但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。）

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき

With Jesus

先日、あるお手紙のなかに、“with Corona の時代、私たちは with Jesus を生きていきましょう”という呼びかけを拝見して、納得させられました。

同時に 45 年も前のこと、私が修道会に入会した翌年に、『利己的な遺伝子』（リチャード・ドーキンス）という本が世界的なブームになったことを思い出しました。この本から、“人間は結局、遺伝子レベルからして利己的な存在”という風潮が、時代に後押しされるように流れ、思想界にも影響を与えたといわれます。

イエスに従って、イエスと共に生きていこうとはじめた修道生活を生きながら、何かあるたびに、“人間は所詮、遺伝子レベルから利己的な存在？”という考えがおこり、少なからぬ葛藤のもととなりました。

しかし、2011 年『利他的な遺伝子』（柳澤嘉一郎）が出版され、その後、筑波大学の研究グループが、遺伝子は最終的に利他的なものという研究の講演記録（参照：『地球文明の危機（倫理編）』 新たな倫理をどう構築するか）を読みました。遺伝子には、自らに適合している環境で生きるフェイズ、そうでない時にそこに適合しようとするフェイズ、しかし、どうしても適合できなくなる時には、自らを他者に取り込みやすい状態にして自らを分解していくという 3 つのフェイズがあるというものでした。これを発表しておられた研究者は、究極的に遺伝子は利他的なものという実験結果に遭遇した時、大きな感動を受けられたことも語っておられました。

その時、イエスの「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」（ヨハネ 12 章 24 節）のみことばが、あらためて心に生き始める思いがしたことを鮮明に覚えています。

人々を分断し、閉じこもりがちで with corona の時代に、あらためて、他者が生きるために自らの命を懸けるイエスと共に生きることが、遺伝子レベルからの、生命体本来の生き方であることをしっかりと受け止める必要を感じています。現代の脳科学や心理学からも、人のために生きることが健康のもとであることが報告されます。

利他的遺伝子のレベルからイエスと共に生きる With Jesus を忘れずに生きたいと願う今日です。
(Fr. 中川博道)

